

# 【予防・復帰】 (事例名)

## 出席状況等

出席状況は、おおむね良好である。夜眠れないと教室に入れない。授業中、立ち歩いたり、教室を出

児童生徒の出席状況を具体的に記述し、現在までの状況を把握する

児童生徒の特性		児童生徒をとりまく環境	
気になるところ	生かしたいところ	気になるところ	生かしたいところ
<ul style="list-style-type: none"> <li>全校集会など人がおおぜい集まる場所に参加できない。</li> <li>授業中、友達にしつこく関わり、相手が怒ると暴力を振るい、自分で止めることができない。</li> <li>自己評価が低い。</li> <li>話し言葉での表現が苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>おおぜいの人が集まる場所に抵抗を示すが、行事などに参加したい気持ちはある。</li> <li>地域のスポーツチームに所属し、厳しい練習に参加している。チームの仲間のことが好きであり仲よくしたい気持ちはある。</li> <li>物を作る仕事に興味がある。</li> <li>パソコンが得意である。</li> </ul>	<p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>父親が厳格なため、母親は本人の問題について父親に相談しないことが多い。</li> <li>本人が乳幼児期に、母親は周りとうまくコミュニケーションを取れず、母子で孤立していた。</li> </ul>	<p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>行動の問題が頻発したため、担任は一人で対応しきれない。</li> </ul>
<p>児童生徒自身の持ち味・特性などを、「気になるところ」と「生かしたいところ」に分けて整理する</p>		<p>児童生徒の「気になるところ」と「生かしたいところ」を家庭・学校・その他と生活の環境ごとに分けて整理する</p>	
その他		その他	

本人理解 早期対応 心理的な安定を図る関わり 自己肯定感の育成	教育的支援項目		
	A 児童生徒	①指示的な関わりや介入、枠付け	◎
		②学習支援	
		③社会性の育成	
		④進路・適性・キャリア	
		⑤情緒面への援助	○
		⑥長所を伸ばす関わり	○
	B 保護者	⑦保護者との協働	
		⑧保護者自身への支援	◎
	C 周囲の集まり	⑨支え合う関係づくり	
		⑩いじめへの対応	
	D 関係機関	⑪関係機関との連携	
		⑭二次障害への対応	

「見立て」や「方針」を検討する際、14の教育的支援項目に焦点を当てて検討す

見立て	I 行事に参加したい気持ちはあるが、過敏性や失敗したくない気持ちが強いため、大抵参加しない。
	II 母親の学校への不信感や不協和感に及ぼしている。
方針	I 授業や行事の参加を促すようにさせ、学校生活の中で、自信をもつ機会を増やす。
	II 母親の気持ちを共感的に捉えたり、学校の方針や本人の取組の様子を定期的に伝えたり、SCによるカウンセリングの場を設定したりしながら、学校への信頼感を回復させる。

児童生徒の置かれている状況やその背景、要因の理解を基にした対応方針や支援策を検討する



